

京北地域における生ごみバイオガス化実証実験

京北地域をフィールドとした生ごみの効率的な回収及びバイオガス化・液肥化により、液肥の農業利用を図り、それによって生産された農作物（お米や野菜）を市街地で販売するといった、中山間地域と市街地を結んだ地域循環共生圏の構築を目指す実証実験に関し、関係者が緊密に連携して取り組むこととしています。

京北地域（住民&事業所）



液肥等の利用による農作物の栽培

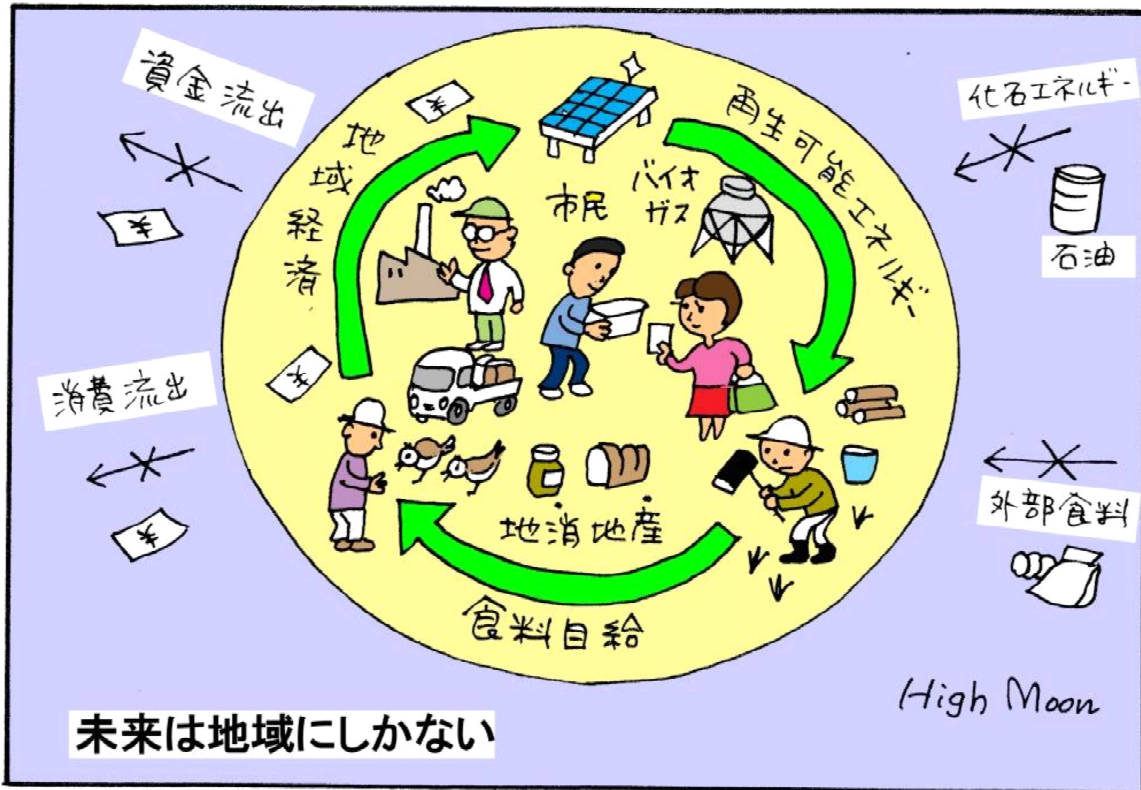


生分解性袋



市街地（ホテル等）

液肥栽培のお米や野菜の販売



作者註:「地域経済を創りなおす」 枝廣淳子著(岩波新書)より

事例② 若者との取組

若い世代の足を引っ張らないように…？！

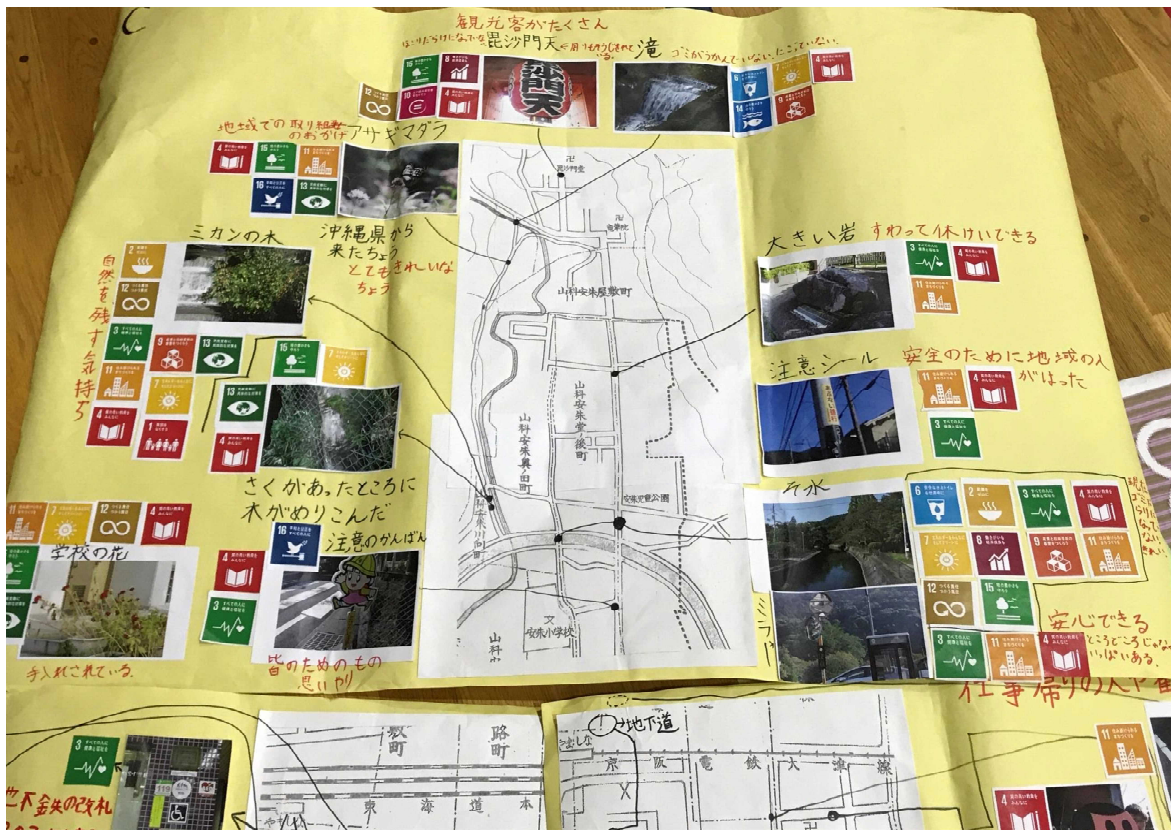
2023年5月27日
(土) 朝日新聞

2023年2月
全国5千人ネット
調査

10代が
最もSDGsを考慮して
商品やサービス
を選択



京都市立安朱小学校 SDGsマップ



京都市立安朱小学校 SDGsで地域の未来を考えよう！

- 安朱小×山科駅前の事業者(山科商店会、ラクト山科)×地域の方×京大
- SDGs学習 → お店の方を訪問し、インタビューを通じて地域の持続可能性について考える



→ お店や地域への提案
& 自分の宣言を表現

- 2022年12月1~20日
展示&発表@ラクト山科



京都大学 中高生SDGsリーダー育成プログラム

“SPARKU”(スパーク) Solve Problems And Revolutionize from Kyoto University

目的:次世代を担う中高生が地域のリーダーとなり、学校や地域における実践的な活動を牽引し、コミュニティを活性化することが持続可能な社会の実現には不可欠である。そのためのリーダー候補を全国各地から公募し、育成すること目的として2020年から開催している。本企画を通してSDGsや社会課題の解決に挑戦しようという人同士のつながりが創出され、時に世代や立場も超えて、互いの想いを交わし、活動状況を共有し合えるネットワークが形成されることを期待している。プログラム略称およびロゴは受講生から公募し、投票によって決定した。

内容:オンラインゼミ、グループディスカッション、京北合宿、フィールドワーク、最終成果発表会

受講生数:2020年度50名、2021年度53名、2022年度44名

本事業は、一部、日本生命財団環境問題研究助成の支援を受けて実施するものです。



WOODRISE2021でのポスター発表



JT生命誌研究館訪問



京北茅刈り体験

地球環境ユースサミット 2023 in KYOTO 開催 Earth Youth Summit 2023 in KYOTO was held



- ✓ 2023年3月21日～23日に京都市京北地域（あうる京北）と、海外とはオンラインを繋いで開催
- ✓ 世界15ヶ国以上、北海道から中国四国地方まで、短期間の募集にも関わらず約200名の高校生が参加
- ✓ 炭素中立、資源循環、生物多様性、ダイバーシティ、SDGs、持続可能な暮らしについて議論
- ✓ 2023年のG7とG20の開催に合わせ、札幌・広島・インドで議論に基づく発信・対話を予定

【参考】ごみゼロ共創ネットワーク

窓口：京都超SDGsコンソーシアム(Team EXPO 2025 共創パートナー)

大阪・関西万博を越え、2050年カーボンニュートラル社会における資源循環の在り方についても、皆さんと一緒に考え、議論し、実践したいと思います！

2025年大阪・関西万博開催に向けたレガシーづくりの一環として、ごみゼロに向け、多様なプレイヤーを巻き込んだ共創のためのプラットフォームを構築します。具体的には、全国のクリーンアップ活動の優良事例の共有や効果の可視化、学術・技術分野との連携によるブレークスルー、上流対策を含む提言等を目指します。個々で保有するには「もったいない」熱意やノウハウを、ネットワーク化することで、2050年大阪ブルーオーシャンビジョン達成に向けた大きなムーブメントにつなげます。



万博に向けた資源循環分野のレガシーづくりへ！
11/5(土)10:00-14:00@京都大学超SDGsシンポジウム
約30の全国の若者や活動団体からの事例紹介と提言



一般社団法人maiPLA



浜中町立散布布小中学校



京都女子大学青木研究室



トラッシュロワイヤル



大阪府立堺工科高等学校 定時制



只見中学校

